

りゅうげんじあと
龍源寺跡 現地説明会の資料

一般財団法人長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター

1 調査の概要

- 調査場所：飯田市^{かみひさかた}上久堅3931-1 番地ほか
- 調査原因：長野県飯田建設事務所による国道 256 号拡幅工事
- 調査期間：平成 27 年 4 月 8 日～8 月 31 日（予定）
- 調査面積：5,250 m²（1,750 m²×3 面）
- 検出遺構（遺構の時期は出土遺物から判断）
 - 中世（15 世紀）：^{そせきたてものあと}礎石建物跡、^{みぞあと}溝跡、^{しょうどあと}焼土跡、^{いしれつ}石列、^{どこう}穴（土坑）ほか
 - 近世（17 世紀）：石列、溝跡ほか
 - 近世後半～近代（18 世紀以降）：^{あんきよ}石垣、暗渠ほか
- 出土遺物
 - 中世（14 世紀）：中国で焼かれた^{せいじわん}青磁碗
 - （15 世紀）：瀬戸焼の皿（^{えんゆうこざら}縁釉小皿、おろし皿）、碗（平碗）茶碗（^{てんもく}天目茶碗）、鉢（すり鉢）、ほか
 - （16 世紀）：瀬戸・美濃焼の皿（^{まるざら}丸皿）
 - ^{とらいせん}渡来銭（^{こうそうつうほう}皇宋通宝 1039 年铸造）
 - 近世（17 世紀以降）：皿、鉢ほか
 - 近世後半以降（18 世紀以降）：瓦ほか

2 遺跡の位置・立地

龍源寺跡は、天竜川の左岸（^{りゅうとう}竜東）、天竜川から約 6 km 東の山間地（飯田市上久



龍源寺跡 遠景（玉川対岸の北側から臨む）

調査区内にあった看板
（現在は移設）

堅地区)に所在し、北側に開口する谷状地形に立地します。遺跡の眼前には玉川が流れています。

3 遺跡名(龍源寺跡)の由来

戦乱の時代である中世(鎌倉・室町時代)、龍源寺跡が所在する飯田市上久堅地区と同市下久堅地区(伴野庄の知久郷)は、在地領主の知久氏が支配していました。知久氏は最初知久平(下久堅地区)にいましたが、文亀・永正年間(1501~1520)頃に、上久堅地区にある神之峯城に移り、18箇所の寺院(「知久十八ヶ寺」と呼ばれています)を建立したと推定されています(『下伊那史-6巻-』、『上久堅村誌』等)。

18箇所の寺院は、知久氏の創建と伝わる興禅寺と玉川寺が現存しますが、そのほかは寺院があったとされる場所が推定されているにすぎません。遺跡名は、今回の調査箇所が「知久十八ヶ寺」のひとつである「龍源寺」の推定地であることに起因します。

4 発掘調査でわかったこと

(1) 谷の土地利用

発掘調査では、土の堆積を観察したり、出土した遺物の状況から、3時期(①中世15世紀、②近世17世紀、③近世後半~近代)にわたる生活の営みが確認されました。①は寺院、②は屋敷地?、③は畑や畑に伴う排水施設と考えています。調査区は南西から北東に向かい緩やかな傾斜地であるので、そこを造成して平らな場所をつくりだしてから生活を営んでいたことがわかりました。

(2) 中世の遺構を発見

礎石建物跡が発見されました。礎石の表面を覆う土の中からは、15世紀につくられた瀬戸焼の皿、碗、鉢などがみつき、礎石建物跡は15世紀以前に建立されたと考えています。建物の大きさは、3間×3間(約5m四方)で、堂宇(お堂)のような建物であったと考えられます。建物跡のなかには、部分的に硬く敲きしめられた地面がありました。建物の北東側と南西側にはお堂のプランに平行した溝跡がみつき、谷奥からの排水施設の可能性も考えられますが現在検討中です。

(3) 礎石建物跡発見の意義

今回発見された礎石建物跡は、15世紀に上久堅の地が知久郷に含まれていたこと、知久氏の神之峯城入城(本拠の移転)時期が15世紀まで遡ることなどの可能性を示唆しているのではないかと考えられます。今後、三遠南信自動車道建設関連で、当センターが調査した「知久十八ヶ寺」の推定地(「法心院」「新慶寺」)の発掘調査成果と併せ、上久堅の歴史をより明らかにしていきたいと考えています。

- 知久氏は神氏(諏訪氏)の分流で、上伊那郡の上ノ平(箕輪町南小河内)に居住しました。承久の乱(1221年)以降に本拠を下伊那郡に移し、天竜川左岸(竜東)を支配しました(『信州下向記』信濃史料巻11ほか)。
- 天文23年(1554)、武田信玄の攻撃で神之峯城は落城しますが(『勝山記』信濃史料巻12)、天正10年(1582)に知久氏は神之峯城を再興しています(『知久文書』信濃史料巻15)。

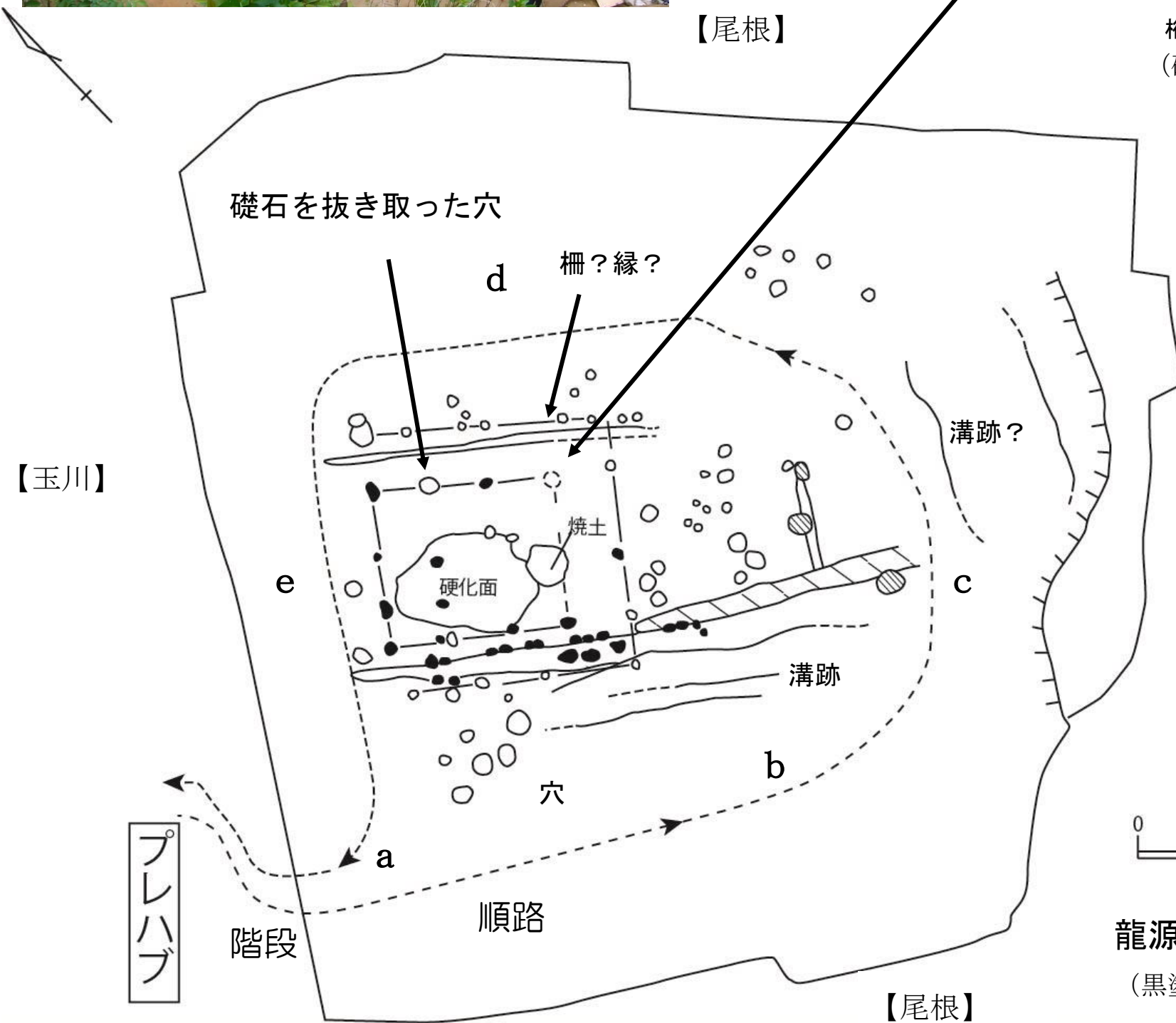


龍源寺跡の調査
(谷のなかでの調査風景)



中世（15世紀）の礎石建物跡
桁行3間、梁行3間の建物
(礎石の上に模擬柱を建てて撮影)

平面形は正方形。建物の立地から北西側（玉川に臨む方向）に入り口があったと考えられます。
柱穴の中には、礎石の抜き取り痕がみつかりました。建物の廃絶後（17世紀か）、一部の礎石は取り出されたようです。



龍源寺跡 中世遺構配置図
(黒塗り：礎石・石列、斜め線の遺構：近世)



国重要文化財 福德寺本堂（大鹿村）
今回発見された礎石建物跡は、写真のような建物であったと考えられます。現存する中世の仏堂で、桁行3間、梁行3間の建物です。明治45年に室町時代前期の建物として国の重要文化財に指定されました。(撮影 河西克造)